

3年目です！

# 北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム

ミュージアムにおける異分野との「対話」と「寄り添い」を通じた人材育成事業



主催：北海道大学文学研究院

## 1. 育成対象者

- ・社会教育系専門職
- ・文化施設系専門職
- ・自治体職員
- ・NPO職員
- ・ミュージアムに強い関心をもつ一般市民
- ・学芸員経験者、休眠学芸員
- ・ミュージアムに関する職種を目指す学生

※先行する北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学芸リカプロ、2018-2020）から継続して受講するケースも

各回の参加者のなかには、こんな方たちが…

- 北海道内のミュージアム専門職  
札幌市博物館活動センター学芸員、札幌芸術の森美術館学芸員、小樽芸術村学芸課長、釧路市立美術館学芸員、北海道立釧路芸術館学芸員、夕張市教育委員会学芸員、だて歴史文化ミュージアム学芸員、釧路市こども遊学館事務局長 など
- 日本各地のミュージアム専門職  
滋賀県立琵琶湖博物館学芸員、長崎県美術館エディター、広島県立美術館学芸員、十和田市現代美術館エディター、神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 など
- 自治体、NPO法人等の職員  
留萌市教育委員会生涯学習課、札幌市東区民センター運営委員、伊達市史編纂室、NPO法人北海道遺産協議会、札幌市博物館活動センター事務職員
- ミュージアム関係者に強い関心をもつ市民  
北海道美術史研究者、ミュージアムグッズ愛好家 ほか

参考

北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（2018-2020）の受講者の例

- A氏 令和3年5月、釧路市立美術館に学芸員として就職
- B氏 令和2年5月、斜里町立知床博物館に学芸員として就職
- C氏 令和4年8月より、「伊達市史続刊」編集事業に従事
- D氏 令和4年12月「博物館学雑誌」に関連論文掲載
- E氏 平成30年度の本プログラム成果報告会での報告をもとに、「厚岸 国泰寺の200年」展（令和4年、北海道立釧路芸術館）を実施。
- F氏 ミュージアムグッズ愛好家として3冊の単著を刊行。
- G氏 令和2年度の公開成果報告会の口頭発表に基づき「北海道芸術論評」に論文掲載

## 2. 育成の背景と意義

国内外の機運

- ミュージアムへの新たな期待が高まっている
- ・2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
  - ・2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
  - ・ミュージアムの、観光、まちづくり、福祉・健康、社会包摂などへの貢献が、従来以上に注目されつつある。

現状の課題

新たな人材の必要性も高まっているが…

- ・他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、「専門知」に加えて、柔軟な「総合知」求められる。
- ・しかし、現実には小規模館を中心に、ミュージアムへの新たな期待に追いつくことができていない現場も少なくない。

社会的課題解決のハブとしてのミュージアムを実現するための新たなミュージアム人材が必要

目指す人材

人材育成を通じて、地方の地域課題とミュージアムの課題の解決に貢献する！

- 1) 新たな機能を担うために必要な対象領域や対象組織との対話を、積極的に受け入れる人材
- 2) 自身が企画する事業の幅や、ネットワークを広げることができる人材
- 3) 博物館政策や博物館行政におけるこれまでのミュージアムの役割やミュージアム像を変えていく人材

## 3. プログラムの内容と特色

- ・多彩な学びのプログラムを実施  
レクチャー、シンポジウムといった座学に加えて、エクスカッション、情報交換会、インタビューシリーズ、ワークショップと、様々な形式のプログラムを提供。発信方法も、対面、Zoomによるオンライン配信、YouTubeによるオンデマンド視聴など、多角化に努めている。

ミュージアムを！

社会の様々な課題にミュージアムをプラスし、ミュージアムならではの課題解決について考える

- ・人口減少と過疎化・高齢化、災害による地域の傷、障害者と地域社会との関係、そして人びとの幸福といった問題に、ミュージアムとして何が出来るのかを考えていく。

ミュージアムに！

これまではミュージアムと縁遠かった、あるいは不足していた領域を、積極的にミュージアムに足し算してみる

- ・財政学、会計学、経営学、ブランド論、アーカイブ学などの知見に寄り添い、それらの専門家と対話することで、ミュージアムに今、必要な事柄を発見的に学び合う。



これまでのプログラムの様子



## 4. 具体的な取り組み

2024年度

2022年度

11の公開プログラムに全国からのべ696名が参加

- ・キックオフシンポジウム、レクチャー、シンポジウム、特論、ワークショップ、クロージングシンポジウムを開催
- ・オンラインとYouTubeの事後視聴も含め、のべ696名が参加。

2023年度

通常のレクチャーやシンポジウムにはどまらない、特色ある試みにも挑戦

- ・小樽芸術村を取り上げた実践的なワークショップ、北海道各地のミュージアムのキーパーソンから話をうかがったインタビュー・シリーズ、地域に足を運んで議論したエクスカージョンなどを実施。

これまでの学びを多角的に振り返る複数のシンポジウムや、新シリーズ「となりのしばふ」などを開催中！

### ◆ シンポジウム、レクチャー、特論

ミュージアム「に」プラスする、ミュージアム「を」プラスする、という2つの方向から、シンポジウム、レクチャー、特論を行ってきた。招聘講師数は、2024年度末までで54名にのぼる予定。

2022  
2024  
年度



【左上から時計回りに】シンポジウム「観光客が訪れる場を超えたミュージアムの役割」、特論「つながる・ひろがる。ミュージアムの未来」、シンポジウム「ミュージアム発の幸福論」、講演と対話「ミュージアムの価値をどう創造するか」、シンポジウム「評価の呪縛からの脱出」、シンポジウム「Insight on Site 地域社会とともにあるミュージアムの現場に学ぶ」

### ◆ インタビュー・シリーズ Insight on Site 地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ

北海道内のミュージアム学芸員および関係者を対象に、それぞれの課題や取り組みについてインタビューし、知見を集めていく企画。全15本の動画を作成・公開した。

2022  
2023  
年度



こちらからご覧いただけます！



### ◆ 地域とともにあるミュージアムのあり方を考える情報交換会

北海道内の学芸員、行政職員、アーティスト、研究者、大学院生等、ミュージアムに関係する方たちを集っていただき、立場の違いを超えて議論した。新たな出会いがあったり、創造的なアイデアが生まれたり、課題を共有しあったりと、刺激的な学びの機会となった。

2022  
年度



2023年2月12日(日) 13:00~16:00  
北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W202教室

### ◆ 「ミュージアムと観光の新たな関係を創造する」ためのワークショップ

ミュージアムは地域の観光にどう関与・支援していけるのか。この点を小樽芸術村の事例を分析しつつ、ロジックモデルを作成しながら考えた。学芸員、元学芸員、ミュージアムの館長、NPO法人職員、広告会社社員という多彩な顔ぶれて、対面で4回、オンラインで7回のワークショップを行い、成果報告会で発表した。

2023  
年度



小樽芸術村各施設、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟、北海道大学学術交流会館

### ◆ エクスカージョン+シンポジウム

現場に実際に足を運び、地域の課題を肌で感じながら、ミュージアムの可能性を問い直した。2023年度に、北海道夕張市と厚真町で開催。人口減少や災害といった過酷な現実と、それに立ち向かうミュージアム関係者の創意や熱意を学んだ。

2023  
年度



2023年9月2日(土) 11:00~16:30 夕張市拠点複合施設りすた+市内某所  
2023年10月14日(土) 13:00~17:00 厚真町軽舞遺跡調査整理事務所

### ◆ とناりのしばふシリーズ

ミュージアムとも近い、さまざまな分野の専門家を招聘し、対話していくシリーズ。多彩なジャンルの知見を持ち寄ることで、ミュージアムを問い直すためのヒントを得るとともに、生涯学習社会における学びのあり方をひろく展望していく。今年度5回、実施予定。

2024  
年度



2024年9月7日(土) 13:00~16:00 北海道大学オープンイノベーションハブ「エンレイノウ」  
2024年9月29日(日) 13:00~16:00 北海道大学総合博物館 知の交流ホール

◀今後のイベント▶



学芸員カプロ参加者のうち、本事業にも継続して参加する方も少なくない。継続的な学びが生まれている。



本事業で育まれた人脈が、北海道博物館協会の共催事業「地域の価値を高めるミュージアム」(令和5年10月、於・釧路市立博物館)等の実現につながった。



インタビュー・シリーズの動画や観光に関するシンポジウムが、小樽市総合博物館の日本博物館協会賞受賞の1つのきっかけに！



情報交換会でのディスカッションから生まれたアイデアが、その後、学会発表になった事例も！



小樽芸術村でのワークショップの成果は、その後、同館で共有・活用されて、ミュージアムと観光のレベルアップに貢献。



本事業の登録者を中心とした書籍も準備中(2025年冬刊予定)

